

東欧経済ニュース

FBC Weekly Business Newsletter

今週のトピックス

- ・ グリーン黒鉛のUPカタリスト、400万ユーロを調達
- ・ 独VW、ポーランドでも「ゴルフ」製造へ
- ・ 中国EV部品メーカーの三花汽零、ポーランドに新工場設置
- ・ 「フィアット・パンダ」の電動モデル、セルビア工場で生産
- ・ レール・バルティカ・プロジェクト、資金・日程面で困難に直面



マクニカがハンガリーのaiMotiveと提携 ADシミュレーションシステムを顧客に提供

マクニカは5日、ハンガリーの人工知能（AI）・自動運転技術スタートアップ企業、エーアイモーティブ（aiMotive）と戦略提携すると発表した。国内外の自動車メーカーやティア1サプライヤー向けに、エーアイモーティブの自動運転シミュレーションシステム「エーアイシム（aiSim）」を提供していく。

FBC Business Consulting GmbH

Address: August-Schanz-Str.8, 60433, Frankfurt am Main, Germany
Telephone: 069-5480950 Fax: 069-54809525 Email address: fbc@fbc.de
Website: <https://fbc.de>

テクノロジー

EU、サイバーレジリエンス法案で合意	3
データオーケストレーション技術のケブーラ、3200万ドルを調達	3
トルコEC大手トレンドヨル、サウジの小売大手と戦略提携	4
グリーン黒鉛のUPカタリスト、400万ユーロを調達	5

スタートアップ企業

求人マッチング・プラットフォーム開発 nPloy（ブルガリア）	6
---------------------------------------	---

自動車

独VW、ポーランドでも「ゴルフ」製造へ	7
中国EV部品メーカーの三花汽零、ポーランドに新工場設置	7
中国EVEエナジー、ハンガリーのバッテリーセル工場を着工	8
マクニカがハンガリーのaiMotiveと提携、ADシミュレーションシステムを顧客に提供 ..	8
シュコダの新「スペルブ」、スロバキアのVW工場で混流生産	9
「フィアット・パンダ」の電動モデル、セルビア工場で生産	10

その他産業

スターター・バッテリーでカルテル、欧州委が制裁へ	10
凸版印刷、チェコで透明バリアフィルム工場を着工	11
精銅大手アウルビス、ブルガリア工場のスラグ処理を最適化	11
露ルクオイル、ブルガリア事業売却を検討	12

総合・マクロ

ECBの量的金融緩和、前倒しで中止も＝ラガルド総裁	12
欧州委が電力供給網増強の行動計画発表、再エネ対応のインフラ整備が柱	13
トルコとベトナムがEV産業での協力を促進、FTA交渉も視野に	13
レール・バルティカ・プロジェクト、資金・日程面で困難に直面	14

編集後記はお休みします

テクノロジー

EU、サイバーレジリエンス法案で合意

- ネット関連メーカーにサイバーセキュリティ対策強化を義務付け
- 製品発売から少なくとも 5 年は安全性に関する監視を続ける必要

欧州連合(EU)加盟国と欧州議会の代表は11月30日、インターネットに接続される機器やソフトウェアのメーカーにサイバーセキュリティ対策強化を義務付ける「サイバーレジリエンス法案」について合意した。サイバー攻撃の対象になりうるネット接続機器が増え続ける中、世界に先駆けて対策を強

化する。

欧州委員会が2022年9月に発表した同法案は、パソコン、テレビ、冷蔵庫、家庭用監視カメラなどネットに接続する機器のメーカーやソフトウェアの開発業者に、設計の段階からサイバーセキュリティ対策を義務付けるというもの。問題が見つかった場合は直ち

に加盟国の監督機関に報告し、必要な対策を講じなければならない。製品の発売から少なくとも5年間、または予想される耐用年数の間は安全性に関する監視を続ける必要がある。

OST41771

データオーケストレーション技術のケブーラ、3200万ドルを調達

- 顧客離脱予測、物流フロー、売上予測などのデータ業務を簡易化
- 様々なデータプロダクトが「1クリックで」完成するのが強み



ケブーラのパヴェル・ドレシャル CEO (左) と、
ペトル・シメチェック共同創設者

データオペレーション業務を簡易化するオーケストレーション技

術を手がけるチェコのケブーラ (Keboola) は1日、シリーズAラウ

ンドで3,200万米ドルを調達したと発表した。この資金で欧州や米国の事業を拡大する計画だ。

ケブーラは2007年にデータコンサルティング企業として創業した。企業の持つ様々なデータを連携させ、目的に合わせて必要なデータを自動的に取り出せるソリューションを運営する。顧客離脱予測、物流フロー、売上予測などのデータプロダクトが「1回クリックするだけで」完成するという。

顧客として、国内食品宅配大手のロホリック（ドイツではクヌスプルブランドで営業）のほか、仏ピュブリシス・グループ、国際コン

(次頁に続く)

サルティング大手のデロイト、塊エルステ・グループ、仏 BNP パリバ、ポーランドのアレグロなどが名を連ねる。

昨年末にはシードラウンドで 500 万ドルを調達した。今回のシリーズ A ラウンドでは米国のバイ

キング・グローバルインベスターズがリードインベスターを務めた。チェコのプロレストベンチャーズやリフレックス・キャピタル、アバスト共同設立者のエドゥアルド・クチェラ氏などのエンジェル投資家が参加した。前回に投資し

た企業・投資家は全て、今ラウンドでも投資した。

ケブーラ社ホームページ

<https://www.keboola.com/>

OST41772

トルコEC大手トレンドヨル、サウジの小売大手と戦略提携

- ファッション分野の新たな EC プラットフォームを立ち上げる
- トrendヨルはトルコ初のデカコーン企業

トルコの電子商取引 (EC) 最大手トレンドヨルはサウジアラビアの小売グループ、セノミ (Cenomi) と戦略提携する。ファッション分野の新たな EC プラットフォームを立ち上げ、湾岸市場で展開する。トレンドヨルが持つ EC 事業の知見と技術に、セノミの広範なポートフォリオと地元市場での強みを組み合わせ、事業の拡大と市場地位の強化を図る。日刊紙『デイリー・サバフ』が 11 月 29 日に報じた。

ファッションとライフスタイルに焦点を当てた新プラットフォーム

ムをサウジアラビア、アラブ首長国連邦 (UAE)、カタール、クウェート、オマーン、バーレーンの 6 カ国で展開する。トレンドヨルがこれらの国で運営してきた EC プラットフォームは今後数カ月以内に刷新され、様々なカテゴリーのコンテンツを利用できるようになる。

セノミはサウジアラビア最大の垂直統合型の小売グループ。国際ブランドと提携して運営するショッピングセンターに加え EC 事業にも進出している。

トレンドヨルは湾岸市場での事

業強化に取り組んでいる。8 月に同地域で運用を開始した同社のモバイルアプリはサウジアラビアと UAE で最もダウンロードされた EC アプリとなっており、1 日当たりの注文数は 11 月時点で 3 万件に達している。

同社は 2021 年 8 月、企業価値の評価額が 165 億ドルとなり、トルコのスタートアップ企業として初のデカコーン (評価額 100 億ドル超の未上場企業) となった。

OST41773

ドイツ経済の
最新動向をお伝えしています



ドイツ経済ニュースを読んで
ドイツ経済に強くなろう



グリーン黒鉛のUPカタリスト

400万ユーロを調達

- 同社はグリーン黒鉛の生産能力で世界一となる可能性
- 黒鉛需要は急速に拡大、脱中国依存が重要課題に

持続可能な炭素材料の製造を手がけるエストニアのUPカタリストがこのほど、シードラウンドで400万ユーロを調達した。生産能力の拡大が目的。量産体制に向けたパイロット設備を導入し、生産規模を現行の10倍に引き上げる。

UPカタリストは煙道ガスを材料に、再生可能エネルギーを100%利用して黒鉛を作り出す。新設備は年間、100トンの二酸化炭素(CO₂)から27トンのカーボン材料を生産する。実現すれば、同社はグリーン・グラファイトの生産能力で世界一となる。

UPカタリストは2030年までに、年間で30万トン（電動車4万台分

のバッテリーアノードに相当）を生産できる体制を整える計画だ。

同社製の黒鉛は煙道ガスに含まれる二酸化炭素(CO₂)が原料となり、CO₂排出量はマイナスになる。30万トンを生産するためには、100トンのCO₂を回収することになる。

黒鉛は需要の急速な拡大で、30年までに世界で年間70万トンが不足する予想だ。主要供給元の中国が今月から輸出制限を発表するなど、欧州でも改めて調達先の確保が重要課題として認識されている。このため、UPカタリストのグリーン・グラファイトが欧州バッテリー業界で重要な位置を占める可能性は小さくない。EUは現在、黒鉛需要の

99%を輸入に頼っている。

今回のシードラウンドでは、ドイツの環境技術投資会社エクスタンティアがリードインベスターを務めた。エストニアの政府系基金スマートキャップのほか、既存株主のサンリー（再可エネ開発事業者）、リトル・グリーンファンド、スコティッシュ・バルティック・インベスト、タルトゥ大学系のユニタルトゥ・ベンチャーズが出資した。

UPカタリスト社ホームページ

<https://upcatalyst.com>

OST41774

自動車産業のニュースを厳選

大手から中小部品メーカーまで



欧州自動車産業ニュースを読んで
最新技術動向を把握しよう



スタートアップ企業



「恋活」アプリのシステムを採用活動に応用

nPloy (ブルガリア)

求人マッチング・プラットフォーム開発

求人と採用活動を円滑にする求人プラットフォームを開発している。求職者の年齢や性別、名前といった個人データを除外し、職業上の経験やスキルにのみアクセスすることで、採用側が無意識のバイアスを避けて透明性の高い選考を行えるのが特徴。人工知能 (AI) が求人側と求職者の相性を見極め、ビデオ面接までセッティングする。11 月に実施したフォローアップ資金の調達ラウンドでは 150 万ユーロの獲得に成功。これまでの獲得資金は 350 万ユーロに拡大した。今回の資金調達はこれま

でに引き続き同国のベンチャーキャピタル、モーニングサイド・ヒルが主導した。

同社のサービスは「恋活」向けのマッチングアプリのシステムをベースに求職者と企業を直接マッチングするもの。システムは従来の求職サイトと異なり、AI のアルゴリズムを利用することで就業経験や資格などに関係の深い仕事のみを表示し、効率的にマッチングを行うことが可能になっている。

サービスを利用する求職者数は、直近の 1 年間に隣国ルーマニアで 160% 増という勢いで伸びてい

る。今後 2 年間では本国ブルガリアで 300%、ルーマニアでは 10 倍以上に成長する見込みだ。2023 年を通じて同社のプラットフォームは世界中の採用管理システム (ATS) との統合が進み、現在、SuccessFactors、Workday、Lever など 40 以上の ATS と連携している。

2018 年の設立。現在のユーザー数は 15 万人で、導入企業には独 IT ベンダーの SAP、食品小売大手のリドル、金融大手のポストバンクなどがある。

nPloy

Evlogi Georgiev 40, 1124 Sofia, Bulgaria

Tel: + 359 87 857 7759 office@nploy.net <https://nploy.net/>

OST41775

経済活動に大きく影響する
EU の政策動向をお伝えしています



欧州経済ウォッチャーを読んで
今の EU を知ろう



自動車

独VW

ポーランドでも「ゴルフ」製造へ

- ヴォルフスブルク本社工場と並行して市場に供給
- ポズナニではゴルフをキャディと混流生産する

独自動車大手のフォルクスワーゲン（VW）がポーランドでも中核モデル「ゴルフ」を生産する方針だ。先月半ばに監査役会が承認したもので、ヴォルフスブルク本社工場と並行して市場に供給する。本社工場の生産台数は従来通りとし、2027年から増産分をポーランドのポズナニ工場に担当させる。

ポズナニ工場はミニバン／トールワゴン「キャディ」を手がける。累計生産台数3,700万台の「ゴルフ」

を手がけることで、中期的に拠点の安定運営と雇用維持が見込まれる。長期的には電池式電動商用車の生産へ移行する予定だ。鋳造工場も将来、電動車向けアルミニウム部品を専門に扱うようになる。

ポズナニにおける「ゴルフ」生産はミディアム・ノックダウン（MKD）方式で行われる。供給される車体をポズナニで塗装して組み立てる。部品調達先はヴォルフスブルク工場と基本的に同じ。キャ

ディとの混流生産を行う。

ただ、具体的にどのバージョンを担当し、何台生産するのかなど詳細計画は明らかになっていない。

なお、VWの新電動商用車モデル「SPACE」の第1号は大型バンの「クラフター」をフルモデルチェンジした電池式電動車となる見通しだ。これは同じポーランドにあるヴジェシニャ工場が製造することになっている。

OST41776

中国EV部品メーカーの三花汽零

ポーランドに新工場設置

- 350人を雇用し、EV・HV向け熱管理システムを生産する
- ポーランドはここ数年、EV関連の投資が相次ぐ

中国・三花控股集团の自動車部品製造事業である浙江三花汽車零部件（三花汽零）がポーランドに新工場を設置する。電動車（EV）・ハイブリッド車（HV）向け熱管理システムを生産する目的だ。投資額は1億6,000万～1億800万ズロチ（3,700万～4,800万ユーロ）。350人の雇用創出が見込まれている。

新工場の立地は南部ティシのカトヴィツェ特別経済地区（KSSE）。敷地面積は1万3,000平方メートルを超える。冷却ユニット、熱交換器、

バルブ、ヒートポンプを生産する計画だ。当初の従業員数は100人で、2025年までに350人に増員する。

親会社の三花控股は空調機器部品の世界大手。06年以来、ティシで家電部品を製造しており、19年からは自動車用プラスチック部品も手がけている。

ポーランドはここ数年、EV業界企業の投資が相次いでいる。独フォルクスワーゲン（VW）は10月、ニサでのバッテリー部品工場建設に17億ユーロを投じると発表

した。メルセデスベンツは昨年、10億ユーロをかけてグループ初のEV専門工場をポーランドに設置する計画を明らかにした。スウェーデンのボルボ・カー（吉利汽車傘下）は間もなく、クラクフでEVテクノロジーセンターを開所する。韓国のSKネクシリスは昨年、スタロヴァ・ヴォラで建設費6億2,700万ユーロの工場を着工している。

（1PLN=36.76JPY）

OST41777

中国EVEエナジー、ハンガリーのバッテリーセル工場を着工

- 年産能力は 28GWh、2026 年の稼働を予定
- EV 用円筒型電池を生産し、独 BMW の現地工場に供給するもよう

中国のリチウムイオン電池大手 EVE エナジー（惠州億緯 能）はハンガリー北西部のデブレツェンで新工場の建設を開始した。同社の劉金成会長が 11 月 28 日に明らかにした。年産能力は 28 ギガワット時 (GWh) で、2026 年の稼働を予定する。同社初の欧州工場となる。

工場の敷地面積は 45 ヘクタールで、1,000 人以上を雇用する予定。以前の発表によると、新工場では電

気自動車 (EV) 用円筒型バッテリーを生産し、独 BMW の現地 EV 工場に供給するとみられる。投資額は 4,000 億フォリント（約 10 億ユーロ）、そのうち 140 億フォリントをハンガリー政府が助成する予定。

BMW はデブレツェンで完全電気自動車 (BEV) 専用プラットフォームを採用した次世代の主力モデル「ノイエ・クラッセ」を 2025 年から生産する。昨年 11 月には工

場に高電圧バッテリーの組み立て施設を併設する計画を発表し、第 6 世代の円筒形バッテリーセルを採用することを明らかにした。EVE エナジーはエンビジョン AESC、中国の CATL と並び、同社のバッテリーセル調達先に指名されている。
(1HUF=0.37JPY)

OST41778

マクニカがハンガリーの aiMotive と提携

AD シミュレーションシステムを顧客に提供

- ADAS や自動運転 (AD) 用ソフト開発の大幅な効率化を支援
- aiMotive は 22 年末から欧州自動車大手ステランティスの傘下



マクニカは 5 日、ハンガリーの人工知能 (AI)・自動運転技術スタートアップ企業、エーアイモーティブ (aiMotive) と戦略提携すると発表した。国内外の自動車メーカーやティア 1 サプライヤー向けに、エーアイモーティブの自動運転シミュレーションシステム「エーアイシム (aiSim)」を提供していく。シミュレーターやデータセットなどのツールも併せて提供し、先進

運転支援システム (ADAS) や自動運転 (AD) 用ソフトウェア開発の大幅な効率化を支援する。

ADAS と AD のソフト開発は高度化が著しく、製品化のためには事前のシミュレーションが非常に重要となっている。一方、従来の公道試験や物理テストは天候条件やシナリオ数などで制限が多く、検証作業に膨大な時間を要する。

エーアイシムは様々なセンサー

をベースにした複雑なシミュレーション環境や、最新のレンダリング技術に基づく天候の再現、1,500 以上の事前定義のシナリオなどの特徴とし、長距離の走行テストや過酷な運転シナリオで AD システムを検証するための優れたテスト環境を提供する。ユーザーはこれにより検証作業に要する時間とコストを大幅に削減し、開発期間の短縮と競争力の強化を実現できる。同システムは自動車用機能安全規格の「ISO26262」で定義された最高水準のリスクレベル「ASIL-D」に対応している。

エーアイモーティブは 2015 年の設立。22 年末から欧州自動車大手ステランティスの傘下にある。

OST41779

シュコダの新「スぺルブ」、スロバキアのVW工場で混流生産

- ブラチスラバ工場で VW「パサート」と混流生産
- 生産移管によりチェコ本国工場の生産能力に余力が生まれる

独フォルクスワーゲン（VW）のチェコ子会社であるシュコダ自動車は1日、フラッグシップ「スぺルブ」の新モデル（第4世代）生産をスロバキアで開始したと発表した。首都ブラチスラバにある VW の工場で「パサート」と混流生産している。

スぺルブは先代モデルまでチェコのクヴァシニ工場で生産していた。ブラチスラバ工場への移管によりクヴァシニ工場の生産能力に

余力が生まれ、2024 年夏以降に人気モデル「オクタヴィア」の生産台数を増やすことが可能になる。また、ムラダー・ボレスラフ本社工場ですべて電気自動車（BEV）の生産を拡大できるようになる。

新スぺルブは当初、エステートモデルを生産し、24 年前半にハッチバックモデルを追加する。ガソリン車を 3 種類（最高出力 150 ～ 265hp）、ディーゼル車を 2 種類（同 150hp と 193hp）投入する。エステー

トには電気駆動のみで 100km を走行できるプラグインハイブリッド（PHV）モデルのほか、スぺルブとして初のマイルドハイブリッド（MHV）モデルを設定する。

スぺルブは 20 世紀前半に初投入されたモデル。社会主義の時代に生産停止となったが、VW 傘下入り後の 01 年に復活した。同年からこれまでの累計生産台数は 160 万台に上る。



ブラチスラバ工場で生産される新「スぺルブ」

OST41780

「フィアット・パンダ」の電動モデル

セルビア工場で生産

- セルビアで電動車が生産される初のケースとなる
- 同工場はステランティスとセルビア政府の合併企業が運営

欧州自動車大手ステランティスは「フィアット・パンダ」の電動モデルをセルビア中部クラグイエバツの工場生産する。同国のブチッチ首相が3日、伊メローニ首相との会談後に明らかにした。同国で電動車が生産される初のケースとなる。生産開始の時期については言及されていない。

新モデルは2024年半ばごろに発売の予定。価格はハイブリッド(HV)タイプが約1万5,000ユーロ、航続距離200kmの電気自動車(EV)タイプが2万ユーロからと見込まれている。フィアット・パンダの現行モデルは伊ナポリ近郊の工場生産されている。

ステランティスとセルビア政府

は2022年、以前「フィアット 500L」を生産していたクラグイエバツ工場での電動車生産に向け、総額1億9,000万ユーロを共同投資する契約を結んだ。工場は同社と政府の合併FCAセルビアが運営しており、出資比率はそれぞれ67%、33%となっている。

OST41781

その他産業

スターター・バッテリーでカルテル、欧州委が制裁へ

- ルーマニアのロンバットなど6社と業界団体に異議告知書を送付
- 関係各社は世界の売上高の最大10%相当の制裁を受ける可能性

欧州委員会は11月30日、内燃エンジン車の始動時に使われるスターター・バッテリーのメーカーがカルテルを結んでいたとして、6社と業界団体に異議告知書を送付したと発表した。

対象となるのはオーストリアのバナー、独クラリオス、インドのエ

キサイド、伊FET(前身のエレットラを含む)、ルーマニアのロンバットと業界団体の欧州自動車・産業用電池製造者連盟(EUROBAT)、同団体のサービスプロバイダーであるベルギーのケレン。

欧州委によると、メーカー5社は2004年から17年にかけて談合し、

販売価格を調整し、EUROBATとケレンはカルテルを支援していた。

最終的にカルテルがあったと認定されれば、関係各社は世界の売上高の最大10%に相当する制裁を科される。

OST41782

凸版印刷

チェコで透明バリアフィルム工場を着工

- 欧州での環境配慮型パッケージの需要増大に応える目的
- 透明バリアフィルム製品「GL BARRIER」シリーズを生産する

凸版印刷は11月29日、チェコ北西部ウースチー州のモストで透明バリアフィルム工場の着工式を行った。新たに設立した「トッパン・パッケージング・チェコ」が2024年末から生産を開始する予定。欧州における環境配慮型（エコ）パッケージの需要増大に応える。投資額は明らかにしていない。

敷地面積が約5万平方メートルの新工場では、透明バリアフィルム製品「GL BARRIER」シリーズを生産する。凸版印刷の透明バリアフィルム「GL FILM」をベースとする同製品は高いバリア性能を持つ。また、バリア素材として一般的なアルミを使わないため、包装資材における脱アルミ化の動きに合

致している。

欧州では環境性能が高くリサイクルしやすいパッケージの需要が急速に高まっている。同社はチェコの新工場と日本、すでに稼働している米国ジョージア州の工場を含む3つの拠点で、この需要を取り込んでいく計画だ。

OST41783

精銅大手アウルビス、ブルガリア工場のスラグ処理を最適化

- 最適化によりスラグ中の銅の損失を年間約500トン減らせる
- 冷却をスラグポットで行いCO₂排出量を大幅に削減



独精銅大手アウルビスのブルガリア法人は11月29日、ソフィア州ビルドプ工場の銅スラグ処理を最適化すると発表した。銅の損失を

防ぐとともに、二酸化炭素（CO₂）排出量を減らして持続可能性を高める。2026年に新設備の試運転を開始し、完成後は年間で100万ユー

ロ台半ばの利益増を見込む。投資額は約4,600万ユーロ。

銅スラグは銅精鉱を酸化させて溶かす自溶炉で生成される。新たに導入する技術ではスラグに含まれる銅をより多く回収し、生産プロセスに再投入。スラグ中の銅の損失を年間約500トン減らせる。また、スラグの冷却はピット（土間）ではなく200個以上の専用容器（スラグポット）で行うことから、CO₂排出量を大幅に削減できる。

ビルドプ工場では精錬した銅から、銅アノードと銅カソード、硫酸、ケイ酸鉄を生産している。

OST41784

露ルクオイル、ブルガリア事業売却を検討

- 同社はブルガリアでブルガス製油所などを運営
- 同製油所はロシア産原油を混ぜた精製品を国外へ供給していた

ロシアの石油大手ルクオイルは5日、「ブルガリア事業の運営条件が大きく変化したことを受け」同国における事業戦略の再検討を始めたと発表した。資産売却も選択肢に含めている。

ルクオイルはブルガリアでブルガス製油所のほか、ガソリンスタ

ンド220店舗、石油貯蔵施設9カ所を運営している。同社によると、1999年以降の対ブルガリア投資額は34億米ドルに上る。

ブルガリアはエネルギー不足への懸念を理由に、海上輸送によるロシア産原油の輸入を禁止する欧州連合(EU)の措置の適用を猶予さ

れている。しかし先月、ブルガス製油所がロシア産原油を混ぜた石油精製品をEUを含む外国へ供給し、ロシアに10億ユーロに上る税収をもたらしていた事実が判明。直後に政府は禁輸実施を従来予定の11月1日から3月1日に前倒しした。

OST41785

総合・マクロ

ECBの量的金融緩和、前倒しで中止も＝ラガルド総裁

- 金融緩和は新型コロナ禍のユーロ圏経済を下支えする目的
- インフレ抑制のため進めてきた引き締め策に逆行するとの声も

欧州中央銀行(ECB)のラガルド総裁は11月27日、金融政策の正常化に向けて、量的金融緩和策「パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)」で買い入れた国債などの資産の再投資を前倒しで中止する可能性があることを明らかにした。

PEPPはECBが新型コロナウイルスの感染拡大で揺れるユーロ圏経済を下支えするため、2020年3月に導入したユーロ圏の国債、社債などの資産を買い入れる措置で、購入枠は1兆8,500億ユーロ。

ECBは22年3月末に買い取りを打ち切ったが、買い入れた債券の満期償還金を柔軟に再投資し、イタリアなどユーロ圏の重債務国の国債を買い支えている。再投資の期限は24年末。

この量的金融緩和策をめぐっては、ECBの政策理事会のメンバーとなっているユーロ圏の中央銀行の一部から、インフレ抑制のため進めてきた金融引き締め策に逆行するとして、早期の再投資打ち切りを求める声が出ている。

ラガルド総裁は欧州議会の公聴会で、再投資中止について「理事会がそう遠くない将来に協議するであろう問題だ」と述べ、前倒しでの中止を示唆した。

ただ、アナリストらの間では、ECBが保有する債券がユーロ圏の投資適格債の30%を占め、完全な打ち切りは金融市場の動揺をもたらす恐れがあるとして、いきなり中止せず、再投資額を段階的に削減するとの見方が出ている。

OST41786

欧州委が電力供給網増強の行動計画発表、再エネ対応のインフラ整備が柱

- EU の配電網の 40%は 40 年以上前に敷設されており効率性が劣る
- 2030 年までに 6,000 億ユーロに近い投資が必要になる見積もり

欧州委員会は 11 月 28 日、欧州連合 (EU) 域内の電力供給網の増強に向けた行動計画を発表した。再生可能エネルギーの利用が拡大する中、これに応じたインフラ整備を進めることを柱とする内容。2030 年までに 6,000 億ユーロに近い投資が必要になると見積もっている。

欧州委によると、EU の配電網の 40%は 40 年以上前に敷設されたもので、効率性が劣っている。域内での電力消費が 30 年までに 60%増加すると目される中、電力供給網

の増強が急務だ。

行動計画は再生可能エネルギー導入拡大など長期的な必要性に応じたインフラ整備を促進するのが狙い。再生可能エネルギー由来の電源に対応できる供給網の拡大、供給網運用のデジタル化などを進めていく。

再エネに関しては、住宅の屋根に設置される太陽光発電パネルなど分散型電源も送配電網に接続し、広く共有できるようにする。また、国境を越えた送電網の送電容

量を 30 年までに 2 倍に増強することなどを打ち出した。必要な投資額は推定 5,840 億ユーロに上る。

このほか、次世代の電力ネットワークであるスマートグリッドの整備、配電網の近代化など関連プロジェクトを迅速に進めるため、許認可手続きの簡素化、事業者の資金調達を支援することなども盛り込まれた。

OST41787

トルコとベトナムがEV産業での協力を促進、FTA交渉も視野に

- EV のほかハイテク、自動化とセキュリティ分野でも協力を模索
- ベトナムにとりトルコは中東・南欧市場への玄関口

トルコとベトナムは経済関係の強化を目指す。ベトナムのファム・ミン・チン首相は 11 月 30 日、訪問先のアンカラでトルコのファティ・カシール産業技術相と会談し、電気自動車 (EV) の分野で民間の協力を促進することで合意した。ハイテク、自動化とセキュリティ分野でも協力を模索する。

チン首相は同日、トルコ航空宇宙産業 (TAI) の工場も視察した。

TAI はアンカラに敷地面積 15 万平方メートルの拠点をもち、航空機と部品を製造している。

同首相はまた、メフメット・シムセク財務相との会談で、両国は自由貿易協定 (FTA) の交渉を開始すべきとの希望を表明。貿易制限措置を相互に撤廃すべきだと訴えた。両国の昨年の貿易額 20 億ドルのうち、ベトナムの輸出額は 16 億ドルに上る。

トルコのオメル・ボラット貿易相は、同国企業が建設、製造、消費材の分野でベトナムに関心を示していると述べた。

両国は 1978 年に国交を樹立した。ベトナムにとりトルコは中東および南欧市場にアクセスするための玄関口となっている。

OST41788

レール・バルティカ・プロジェクト

資金・日程面で困難に直面

- 建設コスト上昇の主因はラトビアの首都リガの架橋工事
- 計画遅延で EU からの助成が減る懸念も浮上

バルト三国を縦断する幹線鉄道を建設するプロジェクト「レール・バルティカ」が困難に直面している。ラトビア公共放送 LSM の取材によると、コストが当初予算の 58 億ユーロから 80 億ユーロへ拡大しそうであるのに加え、計画遅延で欧州連合(EU)からの助成が減る懸念も浮上している。

LSM によれば、ラトビアの主線敷設では設計作業が数年遅れ、未だに手付かずのまま。ほかにも土地収用、建設作業など、あらゆるところで問題になっている。

レール・バルティカは欧州連合(EU)からの助成で総工費の 85% をまかなう計画だが、2030 年までに三国を貫く形で開通させることが条件となっていると説明。実現しなければ助成金のうち 10 億ユーロ弱を受給できなくなる。

コスト上昇の主因は首都リガの架橋工事で、プロジェクト会社ではコスト抑制と時間短縮のため計画の見直しを検討している。修正案は 7 本以上に上り、そのうちの多くは架橋を中止するシナリオだ。また、1 本はリガ中心部を迂回する

ことを提案している。リガでは中央駅と空港駅の建設作業がすでに始まっており、最悪の場合、これが無駄になる可能性さえ出てきた。

報道に対してラトビアのカスパルス・ブリシュケンス運輸相は、リガ中心部を迂回するコースは「受け入れがたい」と否定。橋についても、30 年の時点で橋を含めたルートが開通させられるかどうかは別として、将来的な需要を考えれば、最終的には建設すべきという考えを示した。

OST41789

FBC Business Consulting GmbH

Address: August-Schanz-Str.8, 60433, Frankfurt am Main, Germany

Telephone: 069-5480950

Fax: 069-54809525

Email address: fbc@fbc.de

Website: <https://fbc.de>

免責事項

弊社との契約でご指定になった住所の事業所及びEメールアドレス以外に本誌を配布・転送することを固く禁止いたします

本誌のご利用によって生じたトラブル・損失・損害に関し、当社は一切の責任を負いません

Rechtsform: GmbH Sitz: Frankfurt am Main HRB 44664

Geschäftsführer: Susumu Fujita